

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】平成23年4月28日(2011.4.28)

【公開番号】特開2009-213788(P2009-213788A)
【公開日】平成21年9月24日(2009.9.24)
【年通号数】公開・登録公報2009-038
【出願番号】特願2008-63275(P2008-63275)
【国際特許分類】

A 4 4 C 25/00 (2006.01)

【F I】

A 4 4 C 25/00

【手続補正書】

【提出日】平成23年3月10日(2011.3.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

機器類、装身具の視認側の一部分に設けられる装飾部材であって、
前記装飾部材が、少なくとも 1 個の反射型偏光板を有し、
前記反射型偏光板の少なくとも一方の表面に、凹凸状の模様を有し、
前記反射型偏光板の視認側の表面に、被覆層を形成したことを特徴とする装飾部材。

【請求項 2】

前記被覆層が、金属被覆層、金属酸化物被覆層、金属窒化物被覆層、樹脂被覆層、ガラス被覆層から選択した 1 種以上の被覆層から形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の装飾部材。

【請求項 3】

前記金属酸化物被覆層が、酸化ジルコニウム、酸化ニオブ、酸化チタン、酸化鉄、酸化スズ、酸化シリコン、酸化アルミニウムから選択した少なくとも 1 種の金属酸化物から形成されていることを特徴とする請求項 2 に記載の装飾部材。

【請求項 4】

前記金属窒化物被覆層が、窒化シリコン、窒化チタン、窒化ジルコニウムから選択した少なくとも 1 種の金属窒化物から形成されていることを特徴とする請求項 2 に記載の装飾部材。

【請求項 5】

前記樹脂被覆層が、ポリカーボネート樹脂、アクリル樹脂、ポリアセタール樹脂、ABS樹脂、ポリエチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂、ポリスチレン樹脂、ポリエチレンテレフタレート樹脂、アルキッド樹脂、塩化ビニール樹脂、ポリウレタン樹脂、ポリエステル樹脂、フッ素系樹脂から選択した少なくとも 1 種の樹脂から形成されていることを特徴とする請求項 2 に記載の装飾部材。

【請求項 6】

前記反射型偏光板の少なくとも一方の表面に、光透過性着色層を有することを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれかに記載の装飾部材。

【請求項 7】

前記装飾部材が、基板の少なくとも一方の表面に貼着されていることを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれかに記載の装飾部材。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 2 7】

反射型偏光板 1 4 に入射した光 P 1 は、被覆層 1 7、凹凸状の模様 1 6を設けた反射型偏光板 1 4 に入射する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 5 0】

このように構成することによって、基板 1 2 の少なくとも一方の表面に形成された凹凸状の模様 1 1 と、反射型偏光板の凹凸状の模様 1 6 が重なって、奥行きのある模様が形成された極めて斬新な模様を提供でき、高級感のある外観品質を有する装飾部材を提供することができ、機器類、装身具、装飾部材のデザインバリエーションの拡大を図ることができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 5 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 5 2】

このように構成することによって基板 1 2 の表裏両面の凹凸状の模様 1 1 a、1 3 a が互いに異なるので、これらの異なる模様が重なって、観者に対して、奥行きがあって、しかも、斬新な模様を提供でき、高級感のある外観品質を有する装飾部材を提供することができ、機器類、装身具、装飾部材のデザインバリエーションの拡大を図ることができる。

なお、この場合、図示しないが、この表裏両面の凹凸状の模様 1 1 a、1 3 a は互いに同じ模様とすることもできる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 5 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 5 9】

このように構成することによって、基板 1 2 の少なくとも一方の表面に、複数の模様 1 1 a、1 1 b を有するので、複数の模様によって、斬新な模様を提供でき、高級感のある外観品質を有する装飾部材を提供することができ、機器類、装身具、装飾部材のデザインバリエーションの拡大を図ることができる。

なお、この場合、複数の模様 1 1 a、1 1 b を全面に設けたが、図示しないが、複数の模様 1 1 a、1 1 b を部分的に設けることももちろん可能である。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 6 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 6 2】

図 1 4 に示したように、この実施例の装飾部材 1 0 は、反射型偏光板 1 4 の基板 1 2 と

対向する側、すなわち、図 1 4 において下側の表面に、梨地状の凹凸状の模様 2 2 を、金型からの転写し形成した点が実施例 1 と異なっており、その他は実施例 1 と同様である。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 7 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 7 4】

この実施例の装飾部材 1 0 は、反射型偏光板 1 4 の基板 1 2 と対向する側の表面に、凹凸状の模様 2 2 を梨地状に形成しているが、前述の実施例 1 に記載したように、凹凸のある他のパターン模様を形成しても良い。また、凹凸状の模様 2 2 は金型から転写し形成したが、この他、選択する模様によって切削加工、プレス加工、サンドブラスト加工等、様々な加工方法を用いることができる。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 7 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 7 5】

以上のように、この実施例の装飾部材 1 0 によれば、金属装飾部材と同様の白色感が得られる。また、この実施例においても、実施例 1 と同様の効果を得ることができる。さらに、凹凸状の模様 2 2 を反射型偏光板 1 4 の基板 1 2 と対向する側の表面に設けることにより、透明感のある模様が視認されることにより高級感のある装飾部材を得ることができる。

(実施例 3)

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 7 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 7 7】

図 1 5 に示したように、この実施例の装飾部材 1 0 は、反射型偏光板 1 4 の視認側の表面に、格子状の凹凸状の模様 2 4 を形成し、基板 1 2 と対向する側、すなわち、図 1 5 の下側の表面に、サークル状または渦巻き状の凹凸状の模様 2 6 を形成した実施例であり、何れも金型から転写して形成したものであり、両面同時に加工することができる。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 8 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 8 2】

この実施例の装飾部材 1 0 は、反射型偏光板 1 4 の両面のそれぞれに、格子状の凹凸模様 2 4 と、サークル模様状または渦巻き模様状の凹凸模様 2 6 を形成した例で説明したが、両面に形成する模様が互いに異なる模様であれば、他の凹凸模様を形成しても良い。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 8 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 8 8】

このように構成することによって、反射型偏光板 1 4 が、表裏両面の一部に凹凸状の模様 2 4 a、2 6 a を有し、表裏両面の凹凸状の模様 2 4 a、2 6 a は互いに異なるので、観者に対して、部分的に奥行きがあって、しかも、斬新な模様を提供でき、高級感のある外観品質を有する装飾部材を提供することができ、機器類、装身具、装飾部材のデザインバリエーションの拡大を図ることができる。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 9 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 9 0】

このように構成することによって、反射型偏光板 1 4 の少なくとも一方の表面の一部に、凹凸状の模様 2 4 a を有するので、部分的に模様が形成された斬新な模様を提供でき、高級感のある外観品質を有する装飾部材を提供することができ、機器類、装身具、装飾部材のデザインバリエーションの拡大を図ることができる。

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 9 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 9 1】

さらには、図 2 0 に示したように、反射型偏光板 1 4 の少なくとも一方の表面に、複数の模様 2 4 a、2 4 b を有するようにすることもできる。なお、この実施例では、反射型偏光板 1 4 の視認側の表面の模様 2 4 a、2 4 b に適用したが、反射型偏光板 1 4 の視認側と反対側の表面の模様 2 6 に適用することもできる。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 9 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 9 2】

このように構成することによって、反射型偏光板 1 4 の少なくとも一方の表面に、複数の模様 2 4 a、2 4 b を有するので、複数の模様によって、斬新な模様を提供でき、高級感のある外観品質を有する装飾部材を提供することができ、機器類、装身具、装飾部材のデザインバリエーションの拡大を図ることができる。

なお、この場合、複数の模様 2 4 a、2 4 b を全面に設けたが、図示しないが、複数の模様 2 4 a、2 4 b を部分的に設けることももちろん可能である。

(実施例 4)

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 9 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 9 6】

その他は、実施例 3 と同様である。この実施例の装飾部材 1 0 は、格子状の凹凸模様 2 8、3 0 の深さが強調され、立体感のある凹凸模様が視認され、より高級感のある装飾部材を得ることができる。

(実施例 5)

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 2 3 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 2 3 4 】

このように構成することによって、反射型偏光板 1 4 が、表裏両面の一部に光透過性着色層 3 4 b、3 5 aを有し、表裏両面の光透過性着色層 3 4 b、3 5 aは互いに異なるので、観者に対して、部分的に奥行きのある着色部分があつて、しかも、斬新な模様を提供でき、高級感のある外観品質を有する装飾部材を提供することができ、機器類、装身具、装飾部材のデザインバリエーションの拡大を図ることができる。

【手続補正 1 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 2 3 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 2 3 6 】

このように構成することによって、反射型偏光板 1 4 の少なくとも一方の表面の一部に、光透過性着色層 3 4 aを有するので、部分的に着色された模様が形成された斬新な模様を提供でき、高級感のある外観品質を有する装飾部材を提供することができ、機器類、装身具、装飾部材のデザインバリエーションの拡大を図ることができる。

【手続補正 1 8】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 2 3 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 2 3 8 】

このように構成することによって、反射型偏光板 1 4 の少なくとも一方の表面に、複数の光透過性着色層 3 4 a、3 4 bを有するので、複数の光透過性着色層 3 4 a、3 4 bによって、複数の色の異なった斬新な模様を提供でき、あたかも金属素材表面に 2 種類のメッキ処理（例えば、金メッキと銀メッキの組み合わせ、銅メッキとロジウムメッキの組み合わせなど）を施したごとの質感を出すことができ、高級感のある外観品質を有する装飾部材を提供することができ、機器類、装身具、装飾部材のデザインバリエーションの拡大を図ることができる。

なお、この場合、複数の光透過性着色層 3 4 a、3 4 bを全面に設けたが、図示しないが、複数の光透過性着色層 3 4 a、3 4 bを部分的に設けることももちろん可能である。

また、図 2 4 ~ 図 2 8 の実施例では、光透過性着色層 3 4 a、3 5 aは、模様を有するように形成したが、光透過性着色層 3 4 と同様に、一部に模様を有するようにすることも、複数の模様を有するようにすることも可能であり、さらには、模様を有しないようにすることも可能である。

（実施例 6）

【手続補正 1 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 2 3 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 2 3 9 】

図 3 0 は、本発明の別の実施例の装飾部材 1 0 の断面図であり、反射型偏光板 1 4 の視認側の表面に凹凸状の模様 4 6を形成し、基板 1 2 と対向する側、すなわち、図 3 0 において下側の表面に光反射層 4 4 を設けた実施例である。

【手続補正 2 0】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 2 6 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 2 6 5 】

このように構成することによって、光反射層 4 4 の光透過性着色層 4 8 によって形成された模様と、反射型偏光板 1 4 の凹凸状の模様 4 6 が重なって、着色された奥行きのある模様が形成された極めて斬新な模様を提供でき、高級感のある外観品質を有する装飾部材を提供することができ、機器類、装身具、装飾部材のデザインバリエーションの拡大を図ることができる。

(実施例 7)

【手続補正 2 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 2 7 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 2 7 7 】

また、第 2 の反射型偏光板 5 4 も同様に、反射型偏光板 1 4 から装飾部材 1 0 の形状に打ち抜いて形成したものである。その後、第 1 の反射型偏光板 5 2 の凹凸状の模様 5 6 の形成されていない表面と、第 2 の反射型偏光板 5 4 の表面とを重ね合わせ、互いの全面で透明性を有する粘着材または接着剤等の固定部材 5 8 で固定し、一体としたものである。

【手続補正 2 2】

【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 1 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 図 1 3 】

